

*H. pylori*に対する*Lactobacillus johnsonii* No.1088と抗*H. pylori*ウレアーゼ卵黄抗体 (IgY) の併用投与による相乗的抑制効果

梅田浩二¹、児玉義勝¹、相場勇志²、熊谷道彦²

(¹株ゲン・コーポレーション 免疫研究所、²スノーデン株 開発情報本部)

L. johnsonii No.1088株は2001年に健康成人の胃液から分離され、細菌学的形態、発酵性状ならびにDNAレベルの解析により、*L. johnsonii*と同定された。本菌は特に耐酸性に優れ、また*H. pylori*に対しても*in vitro*ならびに*H. pylori*感染マウスに対して顕著な抑制効果を示す。(特許出願中)

一方、抗*H. pylori*ウレアーゼIgYは胃ムチンへの*H. pylori*の接着を抑制し、ヒトでの臨床研究でも接着抑制効果が確認されている。(www.irig.jp/index.html) 演者らは*H. pylori*感染確認マウスを10匹ずつ4群に分け、①*H. pylori*感染対照群、②*L. johnsonii*投与群、③IgY投与群、④併用投与群を設定して各々のサンプルを4週間投与して、胃内の*H. pylori*菌数を比較検討した。その結果、併用投与群に於いてのみ顕著な胃内菌数の低下が認められ、10匹の内7匹は検出限界以下であった。このことから食品摂取により*H. pylori*の抑制効果ばかりではなく除菌へのアプローチの可能性が考えられた。